緑豊かな森林を楽しんで守り、未来の後継者を育てていく

グリーンボランティア「森林づくり三重」（三重県）

より安全な施業のための技術を広める取り組み

グリーンボランティア「森林づくり三重」が設立されたのは平成一二年の二月。会長を務めている小林貞佳さんが平成一一年に三重の関町で開催された近畿地区のグリーンボランティア研修会に出席したことに始まります。

「平成元年に〝日本自然保護協会〟の自然観察指導員の講習を受けたのですが、当時は、〝エコ〟も〝環境問題〟という言葉もまだ普及していませんでした。人工材の間伐についても一般のみなさんの間では山を荒らしているというふうに捉えられていたんですね。森林を守るためにも、今後は意識を改革していかなければと思ったのがきっかけです」

そんな熱い想いがあり、研修会の場でボランティア団体を立ち上げることを提案。現在の会員数は約二〇〇名で、企業から委託されている民有林をふくめた約一〇箇所の森林の間伐、枝打ちを定期的に行っています。また湯の山温泉グリーン工房では毎週、日曜日に椅子やペンダントなどを作る木工体験が体験できるイベントを開催。依頼があれば、春休みや夏休みには「冒険学校」と題し、森林の中で子供たちが遊ぶ場を設けています。

「〝冒険学校〟では木で自動車を作って、坂道を滑りおりたり、木の玉切り競争をやったり、檜の木の皮むき体験など、さまざまな遊びができて、子供たちにも大好評です。自然観察もできるので、いろいろな生き物のことを知ることができるし、森林の中ではどんなことに注意すればいいのか教えています。私は子供たちには将来、森林づくりの保安官になってほしいのです。少し

県民デー「里山づくりの集い」に植樹指導等、スタッフとして参加

でも木や自然に関心を持ってもらって、後継者を育てていきたいですね」と子供たちにあたたかい目を向ける小林さん。

人と自然が共生する緑豊かな森林を楽しみながら作り、森林に対する理解を深め、ボランティアの輪を広げていくことが活動の目的のひとつです。今後も、そのための取り組みは続いていきます。

「私どもでは現在、静岡県のボランティア団体が行っている森づくり安全技術技能習得制度の試験を受けて、五名が三ツ星ランクを習得しました。安全に作業を行っていくためにも今後は三重県にも〝三重県森林づくり安全技能技術習得地域協議会〟を立ち上げようと現在、準備中です。それと今後の課題としては里山の竹林退治ですね。現在、問題となっているのが木や枝の処分です。人工材を切って処理をするチッパーシュレッダーをいずれは購入して、チップを森林の肥料として再利用できればとも考えております」

健全な森林づくりのために労を惜しまない小林さん。今後、さらに参加者が増え、活動が活発になっていくことを期待します。

上：松阪での間伐研修
中：市の企業緑地の整備の依頼を受け、剪定・剪定物の処理等を実施
下：木登り等の森林体験学習の様子

data

〒514-0003
三重県津市桜橋１－３
（社）三重県緑化推進協会内
問059-224-9100
http://gvmie.hp.infoseek.co.jp/intro/group.html